

第3回 サイバーセキュリティ検証基盤構築に向けた有識者会議議事メモ

日時・場所 令和元年11月20日(水) 15:00-17:00 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

出席者

【委員】 熱海委員、岩井委員、佐藤委員、下村委員、寺原委員、名和委員、政本委員

【事務局】 IPA セキュリティセンター 瓜生センター長、小川グループリーダー、増田主任研究員、島田職員

【オブザーバー】 経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課 鴨田企画官、尾崎課長補佐、西野課長補佐、野村係長
IPA セキュリティセンター 桑名副部長

議事概要

第3回会議では、IPAより評価者の選定方針、評価方法の考え方、検討スケジュールなどについて説明。その後、評価の公表、評価方法などについて自由討議を行った。委員からの意見は以下の通り。

【製品の公募について】

- 公平性を担保する観点で公募は必要。選定基準のところで公平性を担保できるように議論させていただきたい。
- 日本が特異なのかもしれないが、実験、検証に名乗りを上げる企業は少ない。

【評価の公表について】

- 評価が悪かったのに対して、悪い評価も公表するのか？
- 悪い結果は出さない。プロモーションが目的なので、評価はしたけれど公表できるものがなかったとする。
- 製品は隠して、こういうトライをしてみましたでも良いのでは。
- このカタログにあったものを何人が評価委員が評価して、良かったものの感想を述べるに近いのかもしれない。

【評価方法について】

- 各ベンダーが売りに思っているポイントがあるはずなので、そこを検証する。ベンダーが売りだと思っていなければ、評価対象としない。
- 評価というキーワードが一人歩きしているが、本来の目的はプロモーションなので、製品のいいところをいかに良いというか。
- 評価ではなく、賞のようなものになるのではないか。評価というとCCとかいろいろ出てくる。
- 賞でもプロモーションの後ろ盾にはなるだろうから、そのためにも部門をいくつか作るのが良いのではないか。

【その他】

- ユーザーとしては日本にどんなセキュリティ製品があるのかほとんど知らない。どんな製品があるのかマップは欲しい。
- 評価環境として多賀城とかどこか使わせてほしい。総務省ならStarBEDとか。小さいスタートアップにはセキュリティの実環境がないので、それを提供してあげるのはものすごく良いこと。

以上